

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2011年4月30日】

団体名 特定非営利活動法人アート多摩

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

パブリックアートプロジェクト「大地とアート」

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

地域の特性を生かすとともに参加性の高いパブリックアート活動を契機として、「美しさ」と「楽しさ」を体験することを通して、市民一人ひとりが自己実現の力を呼び覚ますことで、地域社会への関心を高め、地域社会に貢献する新しい可能性を創出することを目的としています。

1965年に始まった多摩ニュータウン開発の中でも、近年開発された八王子市長池公園を含む一帯(ライブ長池地区)は、多摩の豊かな自然環境が生かされた人と自然の共生地区として計画されました。しかし、地域住民の多くが団塊の世代であり、約40年間に渡るベッタウンとしての活用のため、地域社会への関心が希薄であるという弱みがあります。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のもので可。

「大地とアート」は、自然保全を重視する八王子市長池公園の特性を生かし「人と自然の共生」をテーマに、アーティストが立案したプログラムを起点として、市民がその企画運営まで、多様な方法で参加できるパブリックアートプロジェクトです。

今年度は3種類のプログラム、「浮浮*花花(うきうき*はなはな)」「ながいけの道」「野焼き」を全6回と1回の報告展により実施しました。「浮浮*花花」は、竹を素材とした浮島を長池公園の姿池に浮かべていきました。「ながいけの道」は、長池公園の遊歩道の上に、土とステンシルと呼ばれる型を用いて、公園内の動植物を描きました。「野焼き」は、多摩地区に由来する古代の土器作りを体験しました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果(300字)

定期的に行われるパブリックアート活動の様子を、視覚的で直感的なドキュメントとしてカメラやビデオで記録すると同時に、ホームページを通じてそれらを発信していきました。それにより、参加性の高いパブリックアート活動のイメージとプロセスを伝え、擬似的な参加体験を提供することで新たな参加者の獲得を目指しました。

その結果、新たな参加者を獲得することができただけでなく、この擬似的な参加体験を通してパブリックアート活動の意味を理解し、イベントに実際に参加し、自己表現を次々と展開していきました。また、広報の役割となって、多摩テレビや多摩新聞、他のパブリックアート団体の取材を受けるきっかけともなりました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

2年目ということもあり、イベントやスタッフの動きから、企画当初の生硬さが薄れ、全体的にリラックスした時間を参加者と共に過ごすことができるようになりました。そして定期的なイベントと視覚的なドキュメントの発信を通じて、リピーターを得ることができ、参加者の自己表現が呼び覚まされていきました。

またアンケートの回収率が過去最高であったことや、多摩テレビと多摩新聞の取材など、徐々に地域市民の愛されるイベントとして定着しつつあるように思われます。

しかし昨年の7、8月は記録的な猛暑ということもあり、思うような参加者数をこの時期に得ることができませんでした。そのため今年度の開催時について考慮が必要と思われま

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり 特になし

第1回「ながいけの道」

7月末は猛暑の盛り、参加してくれる人がいるかどうか心配でしたが、公園内はバーベキューをする人たちや、元気に遊ぶ子どもたちが大勢いて、期待が持てそうでした。



ふり返り

- ・暑かったので、参加者の熱中症が心配でしたが、特にトラブルが無かったのは幸いでした。
- ・夏休みだったためか、友達といっしょの子どもたちだけの参加も多かったです。
- ・子供たちがストーリーを作りだしていることに驚きを感じました。
「物語をつくる」がキーワードになるかもしれません。
- ・参加していた子どもたちの集中力に驚きました。
- ・会場が広場に近く、人の通りも多いため、参加者が増えました。
しかし、通行の邪魔にならないよう、特に配慮が必要だということに気づきました。

土器の野焼き

多摩ニュータウンにはたくさんの縄文遺跡があります。縄文文化が栄え、すばらしい土器が作られていました。
長池公園には粘土層が顔を出しています。縄文人も使っていたかもしれません。

縄文人の気分になって、土器の野焼きを体験しました。
野焼きは今年で3回目、縄文にとらわれない自由な発想で制作しました。



里山風景の体験ゾーンで作陶



大量の燃料は、公園内の間伐材です。野焼きの炎は800℃以上、作業は大人が活躍しました



冬枯れの里山エリアでの野焼きは、まさに共同作業。皆でタイミングを合わせなければ、大きな炎は上がりません。今回は炎も大きく、温度も上がり、大成功でした。